特集
「敬愛大学におけるAI・データサイエンス教育」編集にあたって

髙橋　和子

A Brief Note on Data Science / AI Education at Keiai University

現代社会は、情報が価値を持つ「情報社会（Society 4.0）」と呼ばれ、インターネットを利用したフィジカル空間とサイバー空間との間の情報のやり取りが盛んである。近年は特にIoT（モノのインターネット）やソーシャルメディアの浸透によりこの傾向が加速化し、様々な領域で、ビッグデータ（リアルタイムに発生する多様かつ膨大な量のデータ）の産出が続いている。また、これを活用するAI技術の飛躍的な進歩や、従来型と異なる仕組みによる高性能の量子コンピュータ、高速通信技術の登場にも支えられ、今や、情報の社会的価値はこれまでの情報社会とは比較できないほどに高まっている。このような社会は「超スマート社会（Society 5.0）」と呼ばれ、経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心のAI社会」として大きな期待が寄せられている。

本学では、いわゆる文系・理系の区別なくこのSociety 5.0の時代に対応し、どのような状況にあっても生き抜くことのできる人材を育成する目的で、2019年4月に副専攻「AI・データサイエンス」（旧名：データサイエンス）を開設した。同時期に、内閣府でも我が国の進むべき指針とし

て「AI戦略2019」を打ち出し、2021年度には、文部科学省・経済産業省とも連携して「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシー）」の公募を開始した。本学が第1回審査（6月）で、千葉県内初の「M-DASHリテラシー」を授与されたことは非常に喜ばしいことであった。

しかし、対外的に一定の評価を受けたにも関わらず、学内における本副専攻の認知が不十分であることを感じる場合も多く、今回、国際学会からいただいたお話を機に、本副専攻の内容紹介に焦点を当て、3本の論文による特集を組むこととした（以下、敬称略）。

第1論文は、髙橋和子・米田紘康・森島隆晴・大塚慎太郎・工藤龍雄・三幣真理・成松恭平による「敬愛大学における数理・データサイエンス・AI教育―副専攻『AI・データサイエンス』と運営組織『AI・データサイエンス教育センター』について―」で、本副専攻開設の背景や内容の紹介とこれを支える教職共同の運営組織であるセンターについて紹介する。

第2論文は、髙橋和子・米田紘康・大塚慎太郎・三幣真理・森島隆晴による「副専攻『AI・データサイエンス』により実践する本学のリテラシーレベル教育―MDASH-Literacy認定科目『情報概論』『データサイエンス総論』と新規科目『AI・DS（データサイエンス）へのいざない』の概要―」で、副専攻の中でも特にリテラシーレベルの教育に関し、今回、認定された科目と2021年度に新たに追加した科目について、科目ごとの到達目標や教育内容を報告する。

第3論文は、髙橋和子・工藤龍雄による「副専攻『AI・データサイエンス』申請者の意識と敬愛大学生のAI・データサイエンスに対するイメージ―2020年度調査と2021年度調査の結果から―」で、本副専攻を申請している学生について、アンケート調査を実施した結果を報告し、今後の学生への周知方法を探る。

この特集により、本副専攻に対する学内での認知と理解が進み、本学のデジタル人材育成教育がより進展することを期待している。